

LEGEND OF KYOTO MOUNTAIN TEMPLE

山科 「牛尾山 法嚴寺」 のご紹介 清水寺奥之院として

当方、日常は、日本の「歴史文化、信仰思想」を、研究発表、執筆受託しております。
その活動を通じ、奈良時代を起源とし、京都の山々に継承されてきた「**観音信仰**」に気がきました。
そして、それら歴史的な山岳寺院が近年の**豪雨被災**されたことも知りました。 それら経緯から
2012年の愛宕「月輪寺」様、2013年の山科の「法嚴寺」様と、ご縁となり、パンフレット作成奉仕と
京都見識者、京都市長などへの発信、ご支援呼びかけに取り組んでおります。「復興 ♡ 京都遺産」

今回、「牛尾山法嚴寺」(通称牛尾観音)のことを、お伝え申し上げます。
「**清水寺**」創建と関係し、奥院としての歴史を持つことが、ともに支援する研究者によって判明しました。
当方から上田正昭先生にお知らせし公認いただき、現在周知拡大中です。
添付資料で、歴史、被災・復旧状況など参考いただければ幸いです。

「牛尾山 法嚴寺」 本山修験宗

〒607-8069 京都市山科区音羽南谷1

寺務所 075-593-8003

住職 田中祥祐

宝亀9年(778年)光仁天皇勅願 延鎮上人創建

添付資料

- ① 当方作成のパンフレット案 当寺歴史紹介の参考
- ② 被災状況
- ③ 清水寺奥院としての本尊由緒 関係文書
- ④ 仏像群の写真

日本学・京都教授研究会「知恵の会」 会員

京都学出版、歴史文化・語源・地名 教授研究会
特定非営利活動法人 京都観光文化を考える会・都草 会員

中村 正司



ホームページ <http://nakamuranina.jimdo.com/>

(スマートフォンにも対応)

〒590-0413 大阪府泉南郡熊取町桜ヶ丘1-19-5

TEL : 090-6056-3295

E-mail : kyotodotcom@emobile.ne.jp



牛尾山 法嚴寺 ほうごんじ

牛尾観音 厄除け不動明王

HOUGONJI



清水寺奥院 修験道の聖地



当寺は古代の神山信仰に起源する。「牛尾山」は、山並みで連なる日吉大社神山と同名で、古事記の山神「大山咋神」(おおやまくいのかみ)を連想、山科の人々に稲作のための水の恵みを弥生時代からもたらしてきた。神祭祀の場所は、山頂にあった「音羽山権現社」で、垂仁天皇から「国土守護・国民豊楽」の祈念所とされた。天智天皇2(663)年、朝鮮半島での「白村江の戦い」の後、我が国は国防の時代となる。大津京に遷都された天智天皇は北九州から瀬戸内に築城され、都の岩となる牛尾山にも御参詣された。そして仏教からは観音信仰を招来、現世利益を願われて、のちに当寺に遷される「観音菩薩」をお手影りされたと伝わる。

奈良時代、「役小角」に代表される山岳修験の流れから、小島寺より「延鎮上人」が牛尾山に入山された。宝亀元(770)年の頃、この地で「行観居士」と出会い、光仁天皇勅許を賜り宝亀9(778)年、当寺創建となる。「坂上田村麻呂公」もまた「延鎮上人」と当地でご縁となった由来から、山号を「音羽山」、本尊を観音菩薩とする清水寺を創建された。また、その歴史的關係から、のちに江戸時代になっても 当寺を「清水寺奥院」と記される。平安時代には、「弘法大師空海上人」や「智証大師円珍上人」たちにより密教が伝来し、当地も修業の場所となる。法嚴寺は、このように日本文化を象徴する自然な神山信仰から山岳修験、観音信仰、密教へ神仏習合してきた。平安京が誕生する以前に起源し、1200年以上の歴史を持つ「修験道の聖地」である。



護摩堂 杉の御神木「天地龍神」

当寺の歴史を伝える 古文書

「都名所図会」や、「雍州府志」、「京師巡覧集」など、江戸時代の文献に、本尊十一面観音菩薩が天智天皇御作になることや、延鎮上人と行観居士のご縁と当寺開山、天台宗寺門派の智証大師円珍による曼荼羅書写、さらに、清水寺奥院としての 当寺縁起 が 記録されている。音羽山については、多くの瀧や行観、空海に關係する旧跡、修業の窟が著るされる。さらに風光明媚を詠んだ 平安から鎌倉時代の古典、藤原定家たちの和歌で飾られている。

〔都名所図会〕

牛尾山法嚴寺は七曲の上にあり眞言宗にして本尊は十一面観音なり天智天皇の御作 脇士は 不動毘沙門天 又 行観居士 延鎮法師の像を安置す 天智帝の社 神明社あり 不動瀧天狗杉 は鐘樓の傍らにあり 黒泥巖金生水 は堂前にあり 智証大師 此両品を以て紺帯金泥(こんしきんでい)の曼荼羅を書写し給ふとぞ 當寺はむかし 延鎮 沙門 音羽川の水上を尋て 行観居士の沓(くつ)を拾ひ 大悲の化現なる事を智(さと)せる靈場なり 洛陽清水寺の縁起に委(くは)し 此沓 當寺の什寶(宝)なり 古は伽藍嚴重にして舊地は山上にあり 故に 清水寺奥院と稱しける

音羽山 又 牛尾山 ともいふ 追分より東南の山なり 音羽里 小山村は道のほとりにありて 一流の山川あり是を音羽川といふ 水上は 山科音羽瀧 にして 古より和歌多し (むかし延徳の頃 高水寺(かみすみじ)殿三品花溪といふ官婦の山荘あり 今西本願寺の別荘是なり) 此流れ右に見左に傍ふて牛尾観音堂に登る道に 安履石(あんりせき)あり 行観居士の沓此石上にありしといふ 弘法腰掛石 鮎尻瀧 調子滝 音羽瀧 は路の右にあり 仙人窟 五丈巖 は左のそば岨を登ること三四丁にあり 蛇が淵は陰路の左にありて 経石は其右にあり 新後撰 宗尊親王 音羽山 花咲ぬらし逢坂の 関のこなたに匂ふ春風 続後拾 後西園寺入道 タされば 松吹風の音羽川 あたりも涼し山の下かけ 拾遺 定家 音羽川 雪けの波も岩越て 関のこなたに春はきにけり 続古 前左大臣 時雨のみ 音羽の里は近けれど 都の人のことつてもなし



「紙本著色法嚴寺縁起 絵巻」(江戸時代前期) 当寺の縁起と靈験について、詳細な記述と土佐派大和絵

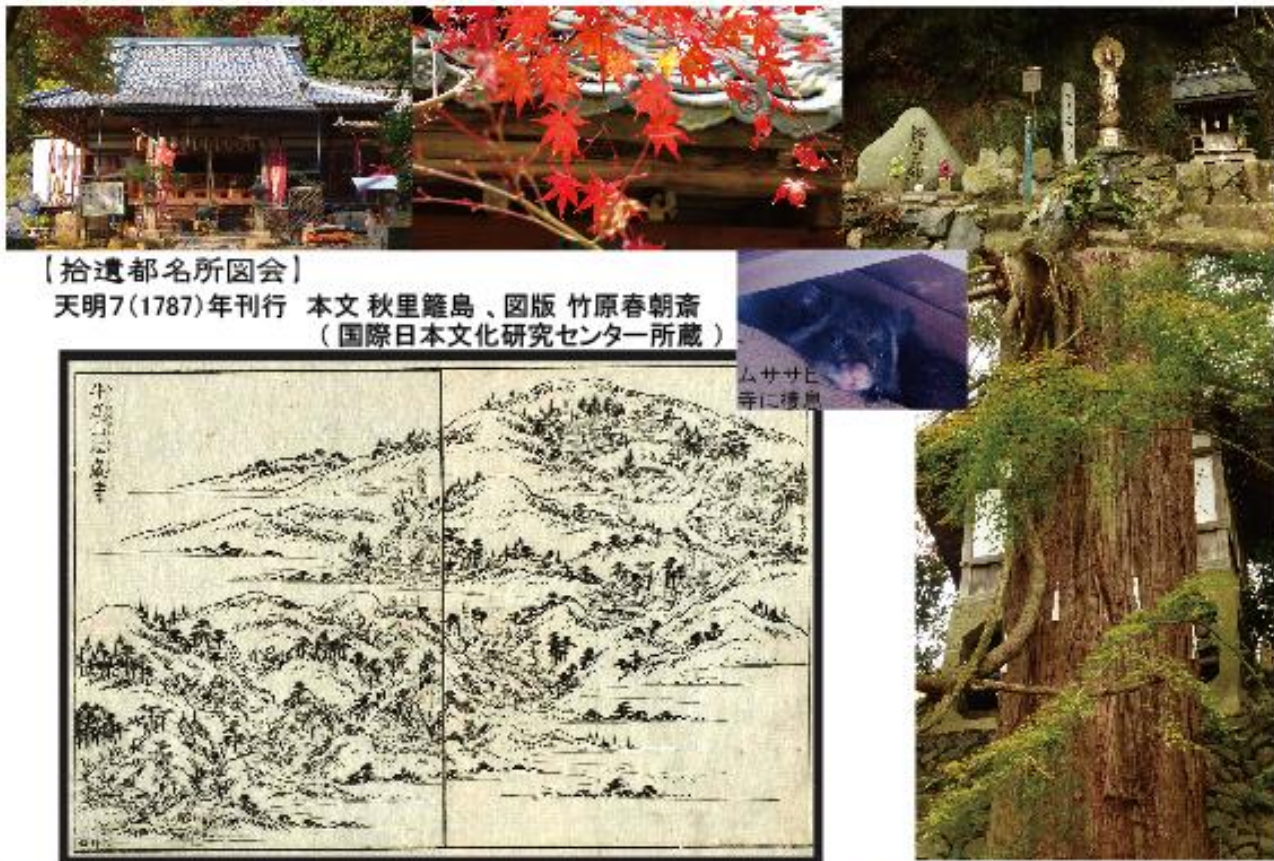
〔都名所図会〕 京都地誌 江戸時代中期 安永9年(1780年)刊行 本文 秋里籬島、図版 竹原春朝斎 (国際日本文化研究センター所蔵)



藤原定家 歌碑 小山から法嚴寺への 音羽川沿いに立つ

後西園寺入道 歌碑 筆者 浅井定雄氏

音羽川沿い 法嚴寺への風景



【拾遺都名所図会】
天明7(1787)年刊行 本文 秋里籬島、図版 竹原春朝齋
(国際日本文化研究センター所蔵)

HOUGONJI

体験修行



厄除け不動明王

POWER SPOT

京都ではめずらしく「滝行」ができる体験修行で、遠方からも来られる。修験の祖「役ノ行者・神変大菩薩」が編出した六根、六境、六識を合わせ十八界。清浄のためには、滝の高さが十八尺が良い規格と説いています。当寺では「役ノ行者」の教え通りに十八尺の滝を作りました。
「厄除け不動明王」は、万物を表す「地・水・火・風・空・識」の「火」を表す護摩堂の本尊です。「滝行」は「水」を表す「五智滝」で行います。
体験修行のお問い合わせ・申し込みは、下記 寺務所まで
推奨期間 6月から10月

- 本堂 本尊 十一面千手観世音菩薩
脇侍 不動明王 毘沙門天
延鎮上人 行叙居士 弘法大師空海 坐像
- 護摩堂 三尊 不動明王(厄除け不動明王) 愛染明王
十一面千手観世音菩薩

- 年中行事
- 元旦 新年修正会
 - 1月17日 初観世音会 (ぜんざい接待)
 - 2月 3日 節分会
 - 4月17日 春季御開帳・探燈大護摩供
 - 8月17日 夏季悪疫災難避法要
 - 10月17日 秋季御開帳・大般若経転読法要
 - 12月31日 除夜の鐘 (年越し蕎麦の接待)
 - 毎月17日 護摩供・観音菩薩の月例祭 (午後1時から)

交通
徒歩: JR山科駅から京阪バス「小山」から 約1時間(音羽川側道)
車: 名神高速道路「京都東」から駐車場まで 約15分
音羽川沿いは狭路 駐車場(約20台)より 徒歩15分



法嚴寺

天智天皇陵 推定地

JR山科駅

名神高速道路 京都東

京阪バス 小山 停留所

音羽山

行者の森

法嚴寺

法嚴寺 本山修験宗
〒607-8069 京都市山科区音羽南谷1
寺務所 075-593-8003 (FAXも同じ)

「復興支援金」お振込についてのお願い
口座「ゆうちょ銀行」記号14430 番号15353701 ほうごんじ
「ゆうちょ銀行」ATMで電信振替にてお振込いただけますと、手数料が無料となります

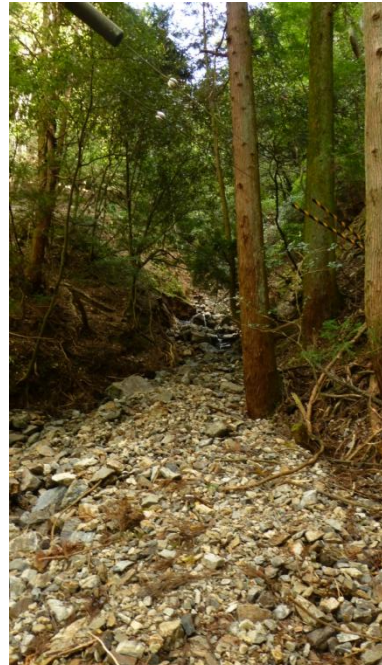
牛尾山 法蔵寺 台風被災

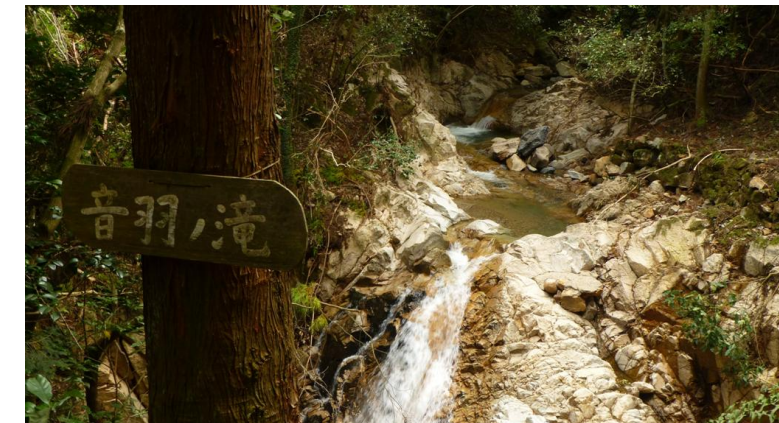
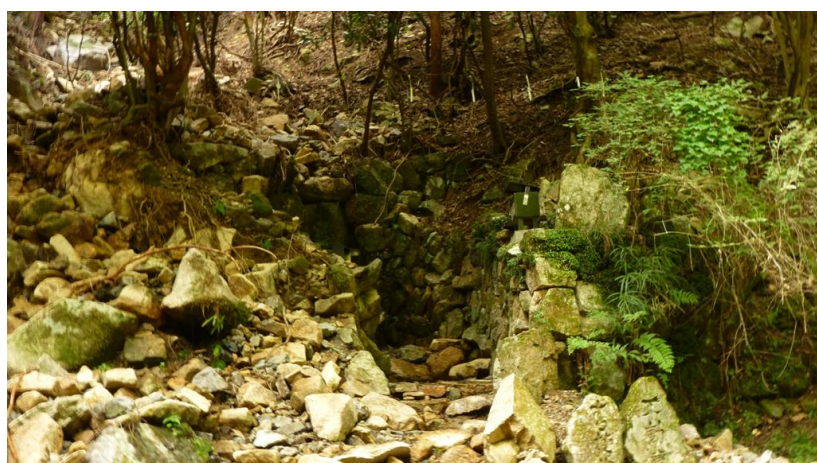
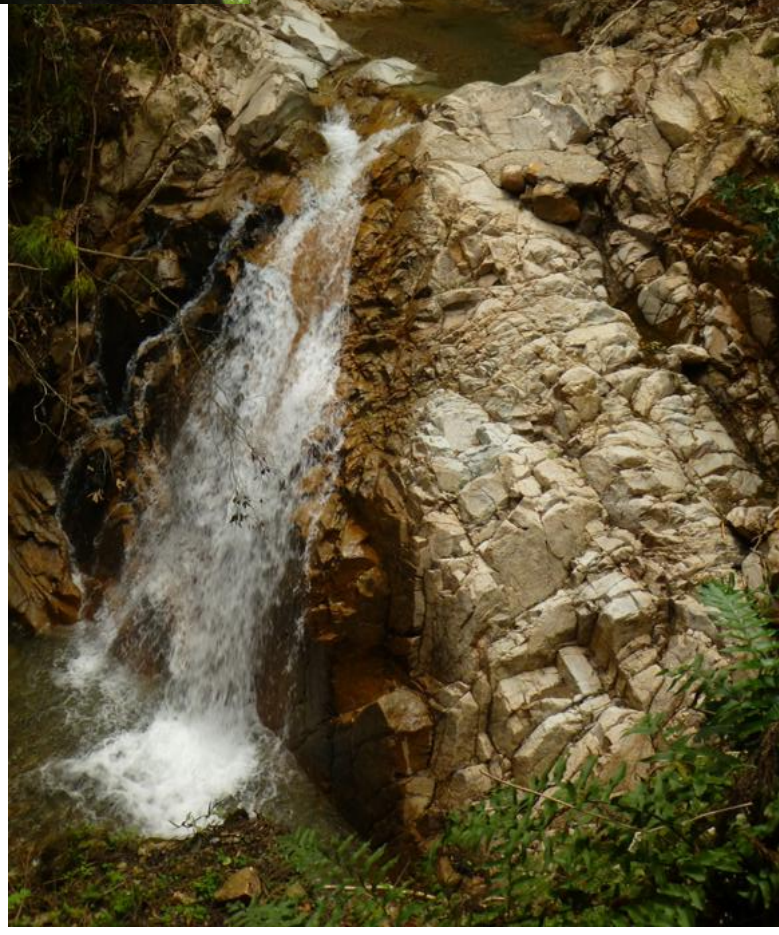
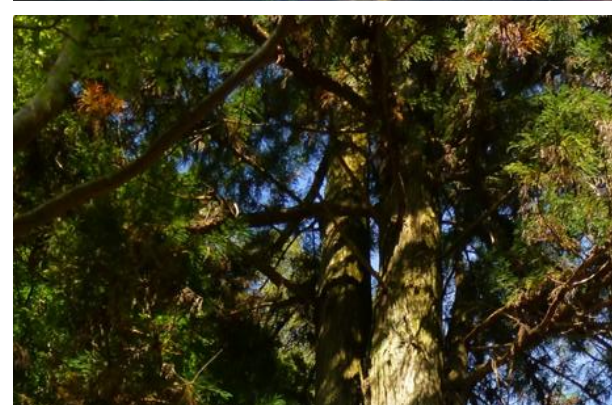
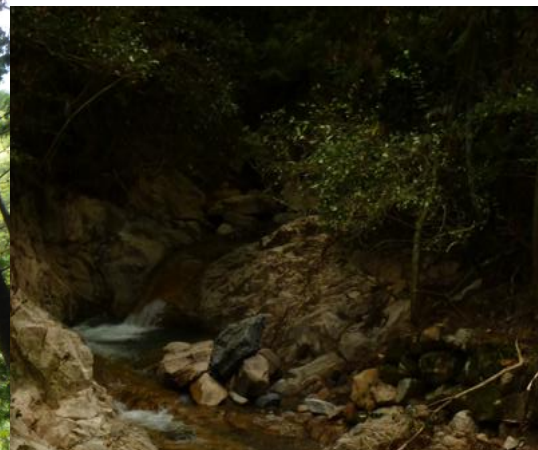
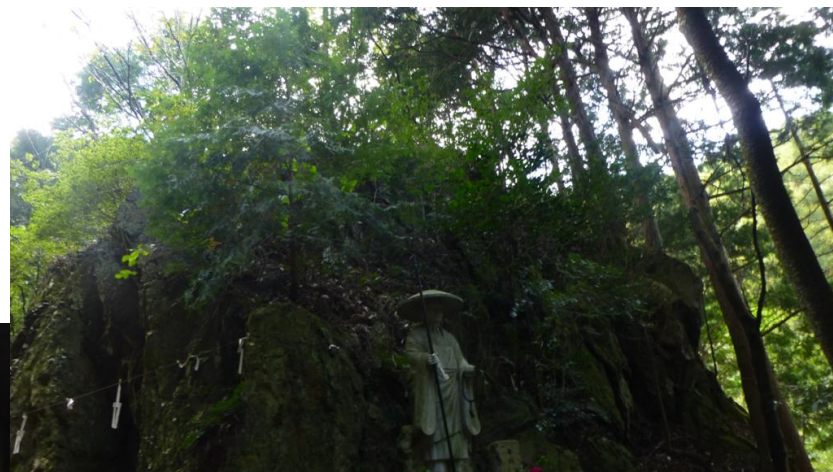
台風第18号、9月13日～16日、我が国初の「特別警報」が発令され、京都でも福知山市、京都市嵐山、羽束師など甚大な被害となり、報道で周知された。しかし、ここ山科東部、音羽川上流に位置する「牛尾山 法蔵寺」も、寺院周辺・川沿参道とも被害。 **境内下の山腹崩落**や土砂崩れで、危険な状態です。

奈良時代に創建され、清水寺の奥院としての歴史があります。今回の甚大な被災を受け、将来への京都遺産継承のため、本堂・参道・山門など復興が必要です。

音羽川沿道・参道は、京都府支援で2015年4月までに、応急的に復旧予定。金堂修繕 や 山門再興、裏斜面の補強などが今後、必要です。

境内下の山腹崩落





「清水寺文書」における法嚴寺記述（下線部分）

「像則与清水寺同作共材矣」と清水寺と法嚴寺の仏像が同じ材木で作られたことが、
また「清水寺与当山同時而興起焉」と、清水寺と法嚴寺が同じ時期に「興起」したことが書かれています。

「清水寺文書」寛文六年（一六六六）五月

『清水寺奥院牛尾巖法寺縁起』

山城州山科之東有山、曰音羽、凡縦横八九里、修嶺數十餘朶、其一日牛尾中有寺以巖法為名、行叡居士殘履之處、延鎮沙門開基之地、則清水寺奥院、大悲千手安座之砌也、往当人王四十九代光仁天皇御宇、宝龜九年四月、大和国子嶋寺之僧延鎮有夢事、泝淀川西行、見一流有金色流、延鎮窮水源至瀧下、側有草庵、白衣老翁居焉、延鎮問曰、住此幾年、姓名為誰、老翁答曰、吾字行叡、隱約于茲地已二百餘歲、持千手千眼円満陀羅尼神咒、我俟汝者尚矣、今既來也、我嘗有東行之志而未果、汝暫替我棲止于茲、斯地好建阿練若、乃指庭前株椅曰、我以此樹擬大悲像材、吾若歸遲、汝先營之焉、言已向東而去、過期而不返、延鎮出庵尋求到当山、忽双履從空面墜、亦有声告曰、我是行叡、亦此地有縁故、猶暫止住焉、汝討蹤而米此故、遺双履示靈跡也、夫茲地者、為宝陀円通之勝境、利益無量甲于天下也、実我名曰大自在王菩薩、汝勿斯靈場令埋没、言畢寂而無音、延鎮記其履之跡、構一字造大悲千手之像安焉、像則与清水寺同作共材矣、延曆之始、坂上將軍田村磨遊獵之日、值延鎮而成大檀那之芳契、爾將軍田村磨東征之時、祈武運之堅固、冀軍戰之必勝、延鎮作地藏・毘沙門之像、而持念陣中有奇瑞、東夷威伏將軍田村磨、凱旋之後、大感歎即立清水寺、雖然、延鎮深思行叡之言訓、尚寓止于当山、如法勤修書写經典、自然墨汁滴々瀝出於石窟中、爾來其徒修此法者集就于彼地、分採備于染翰之資、以為每歲之式例矣、堂下旋檐清泉涌出、味甚甘、病者飲之則疣痂立愈焉、復当山溪谷之流、日夜靡竭旱魃不涸、是所謂清水寺三道、飛瀑之源也、当山之溪水潛而到清水之瀧、其末瀧而落淀川成金色之流、觀音直示延鎮、依之、清水寺与当山同時而興起焉、良有由哉、延鎮自造我之影、置大悲尊像之傍、後空海和尚來于茲、彫刻不動・多門、為觀自在王菩薩左右之脇士、自爾已降祈二世之悉地者、崇奉大悲之薩埵、更亦不為鮮矣、清水寺兼当山奥院千手之靈驗、威力揭焉全無甲乙、然則大悲円通之利生、普門示現

之応用、不論有縁無縁、不簡男女老少、一瞻一礼之族、面聞妙音梵音海潮音之響、一称一念之輩、速滅業障報障煩惱障之患、現世安穩、後生善處、蒙其広益、如鐘之応筵、似影之随形、寔大哉、貴矣、可仰可信、

抑当寺久暨荒廢、堂宇徒成狐兔之棲、頽軒空為鷗鳩巢之巢、柱傾墻倒、上漏下湿、本尊脇士共烏瑟被侵于霜露、華台被損松霧、仏子集玄興廢繼絶、発再興修造之志、依旧識記録之趣、新述薩埵之縁起、蒙十方檀那之資助、欲遂這之願望也、是更非為名聞利養、偏為大悲當來之結縁也、爾則不論片紙半錢、普奉勸道俗男女、庶幾一塵為泰山之基、一縷為巨綱之始者也、依勸進之趣如斯、

于時寛文第六丙午曆五月廿五日

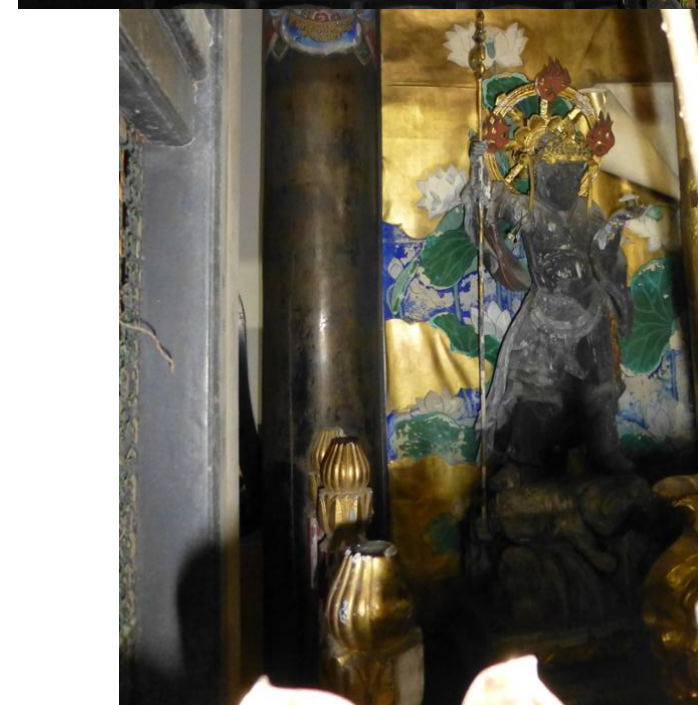
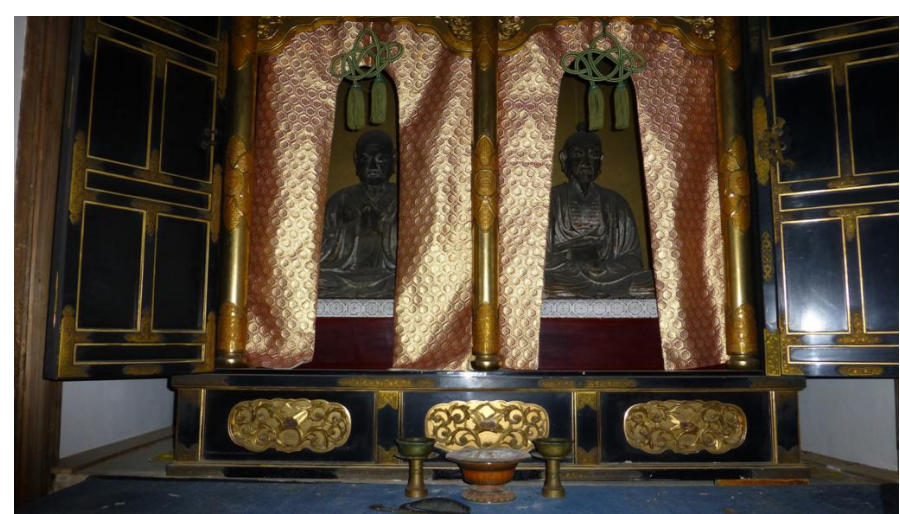
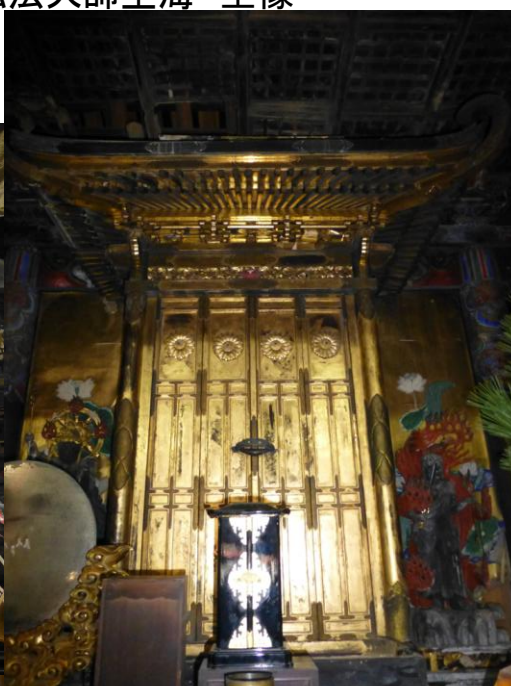
勸進沙門 山城国宇治北郡牛尾山巖法寺

住持 集玄首座

敬白

（*清水寺史編纂委員会『清水寺史 第三巻 史料』音羽山清水寺発行、二〇〇〇年、一六六～一六七ページ）

本堂 本尊 十一面千手觀世音菩薩 脇侍 不動明王 毘沙門天
 延鎮上人 行叡居士 弘法大師空海 坐像



毘沙門天

十一面千手觀世音菩薩

不動明王

延鎮上人

行叡居士

懸仏



弘法大師
空海

護摩堂 三尊



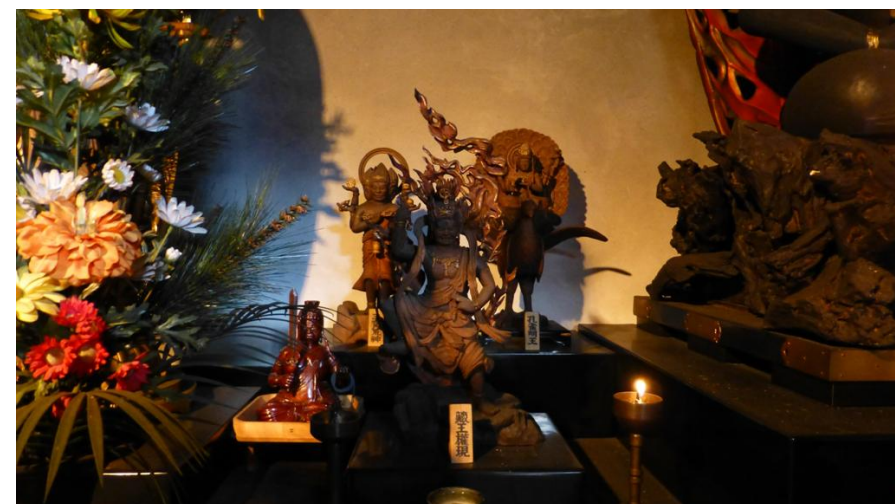
十一面千手觀世音菩薩



不動明王(厄除け不動明王)



愛染明王



蔵王権現



神變大菩薩